

平成26年度 音楽教育にかかわる現状と課題

部長 小池 庸子

1 音楽教育の動向

【上越地区】上越市音楽部では「音楽のよさを感じ取り、音楽表現を高め合う授業をめざして」を研究テーマに、上越市立国府小学校石口一美教諭が1学年「もこちゃんのおんがくをつくろう」を題材に、舘岡牧子教諭が3学年「歌で表現 国府の町」を題材に、上越市立三和中学校中村奈美子教諭が2学年「リズム・アンサンブルをつくろう」を題材に、それぞれ授業公開を行った。児童生徒が音楽の構成要素が生み出す音楽の特徴やよさを掘り所に、協同的に表現を追求できる音楽授業を提案した。柏崎市刈羽郡では、鯨波小学校3～6年生と第三中学校2年生をモデル学級とし、合唱指導講習が行われた。また、「能」を取り上げた音楽授業の研修も行われた。糸魚川市立青海中学校小川敦子教諭は昨年引き続き「心をつなぐときの歌をつくろう」を題材にして1学年の授業公開を行った。妙高市では上越市で実施された音楽部研修会へも参加し研修を深めた。

【中越地区】三条市では「鑑賞指導」と「歌唱指導」について、専門の講師から実践的な指導を研修した。長岡市三島音楽部の授業研究会では、長岡市立関原小学校伊藤啓子教諭が「おはやしをつくってえんそうしよう」を題材に3学年の授業を、長岡市立関原中学校小山絹子教諭は地域の祭りの樽砵を題材に2学年の創作活動の授業をそれぞれ公開した。吉田南小学校高橋哲子教諭が「楽譜で読もう」を題材に3学年の授業を公開した。音楽づくりをとおし、音楽の要素やしくみの理解を深める提案であった。魚沼市では専門家による井口小学校での英語劇ワークショップの研修が行われた。音楽とかかわる新たな表現方法が提案された。見附市では、オペラ歌手を講師に招き、具体的な歌唱指導を研修した。十日町市中魚沼郡では、子どもになって音楽活動を体験する研修をとおし、指導の工夫を図った。南魚沼郡市では、それぞれの専門家を招き、箏と三味線の実技研修を小中合同で実施した。実際に触れることで得られた事柄を大切にしたい。

【新潟市・下越地区】新潟市音楽部では「聴いて感じて考えて音楽を楽しむ子ども」を研究主題に、会員一人一授業研究が行われた。指導と評価の一体化、[共通事項]の位置づけ、言語活動の充実に重点を置いた授業研究ができ、伝統音楽の教材化が継続して進められた。新発田市立御免町小学校において、県小研指定「音楽科」研究大会が「自分の思いや意図をもち生き生きと表現する子ども」を研究主題として行われた。子どもたちの生き生きとした表現にその成果が表れた。村上市立南小学校加賀田麻沙教諭は「日本の音楽に親しもう」を題材に4学年の授業を公開した。リズムか旋律を固定することで、思いを表現しやすくなることを得た。五泉市立巢本小学校小出貴子教諭は「旋律を引き立てるリズムの選択や打ち方の工夫をすること」を狙いにした授業を公開した。表現したいイメージを具現化させた伴奏づくりの工夫が協議された。佐渡市立加茂小学校本間円教諭が「わくわくリズム」を題材に授業を公開し、身体表現のよさの成果を示した。胎内市立きのと小学校松本圭教諭が授業提案し、感受と言語化について深めた。阿賀町立津川小学校近正直美教諭は指揮と関連付けた工夫のある鑑賞指導を提案した。阿賀野市では、講師を招き「打楽器」と「合唱法」について、実技研修を深めた。

2 音楽科教育の課題

子どもが一層音楽に親しみ、自分自身を豊かに表現できるようになるために、抽象的な音を子どもがとらえやすくする手立ての工夫や、言語活動、学び合いの重視を課題にし、担任なら誰でも取り組める音楽授業の実現が今後も一層求められると考える。